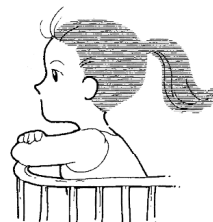


登校拒否・不登校問題

「第15回全国のつどい in 埼玉」

実行委員会ニュース NO.7 (最終号)



第15回全国のつどい in 埼玉実行委員会事務局発行

【事務局連絡先】さいたま教育文化研究所

〒330-0063

さいたま市浦和区高砂 3-12-24 埼玉教育会館 6 階

事務局直通電話 090-5797-2651 (平日 13 時～19 時)・FAX 048-834-3167

電子メール : tsudoi @ tsuyukusa.sakura.ne.jp

URL : <http://tsuyukusa.sakura.ne.jp/>

第6回実行委員会に46名が参加！

最後の最後まで、「想い」を語り合うつどい、

本当にお疲れ様でした！！



10月24日(日)、岩槻駅東口コミュニティーセンター(さいたま市)で「第15回全国のつどい in 埼玉」の第6回実行委員会が開催されました。今回も地元埼玉だけでなく、遠くは長崎・大阪・和歌山・長野、関東では東京や千葉からも合わせて46名が参加し、暑かった秩父での夏のつどいを熱く語り合いました。

2月14日から始まったつどいも無事、最終実行委員会を終了することができました。

長丁場、本当にお疲れ様でした！ありがとうございました！

* はじめのあいさつ



第15回登校拒否・不登校問題全国のつどい in 埼玉

副実行委員長 前島康男

今年のつどいには、青年が100名も参加したと聞いた。よかった！

今日の実行委員会から次の佐世保に引き継ぐ準備を始めて欲しい。

時間の都合もあるが、今日はつどいへの思いのたけを充分話して帰って欲しい。

* 全国のつどい報告

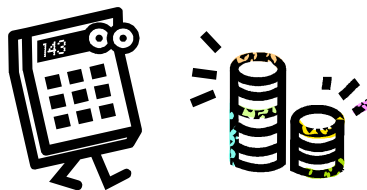


○参加者の分類で見る全国のつどい(報告:事務局長 鳥羽)

- ・色々と悩みはあったが、宿泊者も確保でき、よかった。
- ・参加者の年代としては20～30代の参加者はいるが、保育の子どもがいなかったことから、学齢期の子ども親ではなく当事者の参加者と思われる。(当事者の参加が増えている)
- ・県別に見ると参加者が1人の所もあるが、地元親の会などの仲間がたくさんいる方もいる。数字の読み取り方はそれぞれでいいのではないかと思う。
- ・今回男性の姿が多く見られたため、父親の人数をカウントしてみた。参加申し込みの段階での数字ではあるが、50名以上のお父さんが参加した。

○参加費の会計報告(報告:会計担当 田村・安藤・坂本)※実行委員会資料参照。

- ・収入の部では、予算に無かった書籍の分配益や協賛金があったこと、物販販売が予定より多く売れたことなどから、参加費が若干少なかったものの予算を上回った。
- ・支出の部は、遠方実行委員会参加費補助が約20万円の予算オーバーだったが、謝礼や会議費が予算を下回り、予備費も使用しなかったため、若干の黒字になる見込み。
- ・今回の実行委員会の経費が未計上なので、最終の数字はその後で確定する。
- ・今回、全国連絡会から50万円を借り入れて実行委員会が始動したが、参加費の振込みが本格化する前の6～7月、遠方実行委員会参加費補助が足りず、埼玉県連絡会から更に20万円借り入れた。全国連からの借入金の金額についての見直してはどうか。



○分科会のまとめ

- ・ひとつの分科会を除いて、すべての分科会・基礎講座・ひろばのまとめ案が提出済み。
各分科会の世話人で検討済みの案なので、実行委員会では一つ一つについて検討はしないが、気になる点については自己紹介の中や世話人同士で話してもらう。
- ・まとめ案に個人名が載っているものがあるので、事務局で再度点検する。
- ・フォントや行間などを工夫して読みやすくする。参加要項を検討する時も、より多くの人に読んで貰おうと取り組んだので、最後まで読みやすさを大事にしたい。
- ・単に短くまとめるものでもない。記録の録り方についても詳しく決めていないので、分科会のまとめの形式をそろえるなら改めて考える必要がある。

* 自己紹介から(つどいについて、いろいろと…)

直前までひろばの
スタッフが足りず、焦った！
会場が世話人打ち合わせに使われていて、
受付開始と同時に始めることができなかった。でも、設営
含めて世話人ができて、いいことだらけだった。

3つのひろば・ギャラリーが
行き来できる形の会場よかった



終って初めて見えてくるものがある。
学齢期の親の参加を大事にしたい。

ごみを見れば、その会が
成功したかどうか分る



つどいがなければ、埼玉に来ることは
無かったかも？すっかり乗り継ぎ
も上手になった。来たい所が増えた。

埼玉の実行委員会には「フツーのお母さん」が少ない？
皆チャキチャキしていて、段取りは良かったけれど、
ウダウダが無かった気がする…

実行委員会に入って、新鮮なことがたくさんあった。
「現実から出発する」ということ1つ取ってもビックリ
だった。あるべき姿があるわけではなく、集まった人で
作っていくこと、気持ちの積み重ねが大事にされている
ことに感激！

父親の参加が多い。
半分くらい男性だった
分断会もあった。
社会に出る年齢になる
とオヤジの出番？

送迎を担当。
当日は大変だった……

地元秩父の方が
お花を用意してくれていて
嬉しかった！



当日は、受付を大勢の方が手伝って下さった。
前泊の方が快く引き受けてくれて助かった。
娘さんとやっとの思いで迎り着き、温かく迎えてもらった
経験を大事に、受付の手順を組み立ててくれた。

「つどいの温かさを体験してみて」
と親の会で呼びかけた。16名参加。
長崎にも行きたいね！と言っている。

会計係のお手伝いをするつもりが、騙された？
失敗しても大丈夫と言われて安心した。
まだ残務があるけれど、最後までやれそう。

分科会の中で自分の話が役に立って嬉しかった。
辛そうだった方が明るく帰ってくれてよかった！

分科会以外でも、エレベーター
の中から寝袋の中まで、どこも
かしこも「つどい」だった！！



大交流会でのライブは緊張してしまった。
リラックスしたり、おしゃべりしたい場
なので、よく考えてほしい。

秩父でつどいをやってくれてありがとう！
たくさんの人とつながることができ、
ログハウスを借りて居場所を始めることに
なりました。

第5分科会(学校づくり)は、不登校問題の
玄関と奥座敷が一緒になっている分科会。
学校制度も含めてこれからどうしていこうか？
ということも検討しなければならないので、
研究者が入った方がいい。教員養成にも生きるはず。



立派なつどいでした。
医療・福祉の交流会は、
隣の会場が飲んだり
騒いだりうるさかった。

会場は色々制限がありながらも、つどい本来の精神は
大事にできたのでは？
事務局を担当して大変だったのは、仕事をしながら事務局
会議・実行委員会・ニュース作成・発送…と次々
押し寄せてくるのが辛かった！

宮崎のつどいから参加。
あの頃が一番辛かった。
だんだん楽になり、つどい
が楽しみになった。



学生。

第5分科会に参加。

先生は親に何かを教えるのではなく、話を聞いてあげることが大事と知ってよかった。

学生。

つどいの後、教育実習に行き、親と連携することの難しさを実感。

つどい初参加。

世話人も引き受けたのに、すべて名ばかり。仕事放棄は悪かったけれど、自分としては充実した時間だった。

第2分科会(中学生)に参加。中学生に不登校が多いのに、内情が分らずブラックボックスだった。当事者の青年達が参加してくれて、当時のことを話してくれ、少し見えてきた。

初めての参加。

あったかくていい集会だった。実行委員会に参加して、A3判の進行表を見た時電車のダイヤかと思った。お母さん達の温かさが出ていた。人生は出会い！

会場は色々制限がありながらも、つどい本来の精神は大事にできたのでは？事務局を担当して大変だったのは、仕事をしながら事務局会議・実行委員会・ニュース作成・発送…と次々押し寄せてくるのが辛かった！

* 気づいたこと・次のつどいへの要望



- 過去のつどいの分科会の歴史を一覧にした資料が欲しいので、全国連絡会に作成をお願いしたい。
- 分科会の会場に、マンション型の宿泊部屋は使いにくかった。
つどいの会場として、私立大学の施設などを検討してみてもどうか？
- 教育会館での宿泊は、お金の無い青年にとって本当に嬉しかった。今後もこのような企画を工夫して欲しい。

* おわりのあいさつ



第15回登校拒否・不登校問題全国のつどい in 埼玉

実行委員長 馬場久志

鳥羽事務局長からいただいた最後の仕事は、「今日の皆さんの話をじっくり聞いてください」。今日は40人ほどの参加でたっぷり3時間。つどいではこの10倍以上の人が語り合い思いを持ち帰ったということになる。思いを語ればのべ何時間になるのだろう。

とにかく集会は規模の大きさを求めてしまうが、このつどいではそういう考えでなくやってきた。あたま数ではなく、参加した一人一人にとってどういうつどいであるかが大事だと。そこは私たちはこだわってこれたのではないかな。

実行委員長が作ったのだからと皆さん遠慮することなく、徹夜して作った参加要項が事務局会議でボロボロにされ、実行委員会でも更に叩かれて、影も形もないほどに直された。でもその指摘はどれも、その先の向こうに参加する人を想像してのことだったと思う。

先ほど「手伝い」をどう受けとめるかという話が出されたが、一度でも実行委員会に出た方はつどいへの見方が違う。実行委員会に参加してからつどいへという流れで誘いたい。

一生懸命考えながら準備してきたつどいだが、至らない点は多々あったと思う。長崎に引き継いで一緒にあらためていきたい。やり直しが許されない今の世の中、特に教育の世界がそうなっているが、私達はいつでも何度でもやり直しができるということを、示していきたい。

ホームページは次の実行委員会が立ち上がるまでは存続し、その後は埼玉県連絡会で活用していきたい。

長丁場の活動だった。膨大な仕事をこなして下さり感謝申し上げる。まもなく長崎での実行委員会開催の準備が始まる。それまでお元気で。

登校拒否・不登校問題全国連絡会へのお誘い

すべての子どもたちが、生き生きと自立へと向かって成長できることを願い、ひとりぼっちで悩む親や教師がなくなるように…と、95年に全国連絡会ができました。ニュースレターでの交流や、「全国のつどい」などで交流をしています。ご入会されたい方、詳しく知りたい方は、実行委員会もしくはつどい事務局までお問い合わせください。

